

学びのための 東松山 巡検ガイドブック

● 東松山で地理巡検を。

1. 東松山の自然（湧水・沼・緑地）
2. 東松山の玄関口（駅・IC）
3. 旧中心市街地（本町・材木町）
4. 日本スリーデーマーチ
5. 東松山の歴史的景観（路地空間・歴史的建造物）
6. 歴史資源（神社・仏閣・古墳）
7. 東松山の特産品（梨・栗）



1. 東松山の自然

1-1 湧水・沼の特徴

東松山市街地は起伏に富んでいる（図1）。市街地には湧泉が多く、その水を集めた池や沼が崖線沿いの谷地に多く分布している（図2）。上沼・下沼・五領沼などは自然を堪能できる公園として整備されている。池の周辺を歩くことができるなど水と親しみやすい環境が整備されており、水を活かした景観が形成されている。

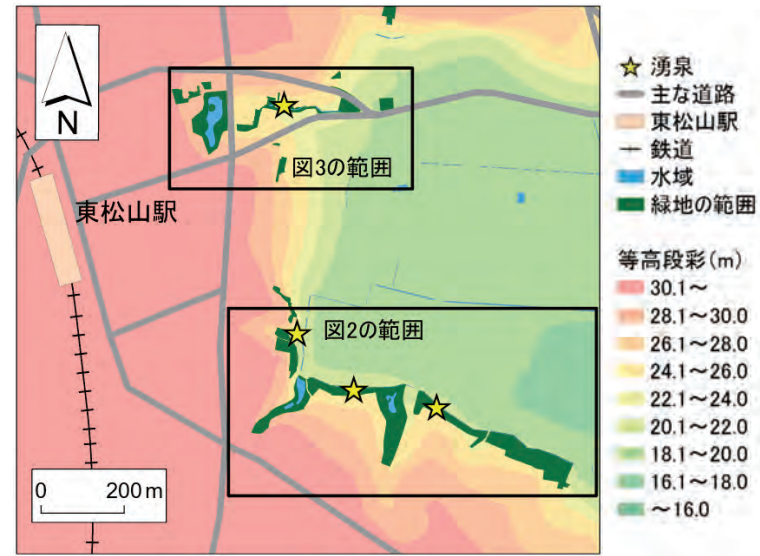


図1 東松山駅東側の地形
(現地調査によりArcGISで作成)



写真① 五領湧水
(2021年11月撮影)



写真② 五領沼公園
(2021年11月撮影)

1-2 緑地の特徴



写真③ ふれあいのみちとガラスモザイク壁画
(2021年11月撮影)



写真④ ガラスモザイク壁画
(2021年11月撮影)

東松山の緑地は、崖線沿いに多く分布している（図1, 図3）。その中で、「ふれあいのみち」は緑地を堪能できる場所となっている。また、様々な種類の花や樹木、東松山の小中学校の生徒たちの手で作られた計8面のガラスモザイク壁画があり、緑地を活かしつつ、自然を楽しむことのできる景観が形成されている。



写真⑤ ふれあいのみちの松本町一丁目緑地
(2021年11月撮影)

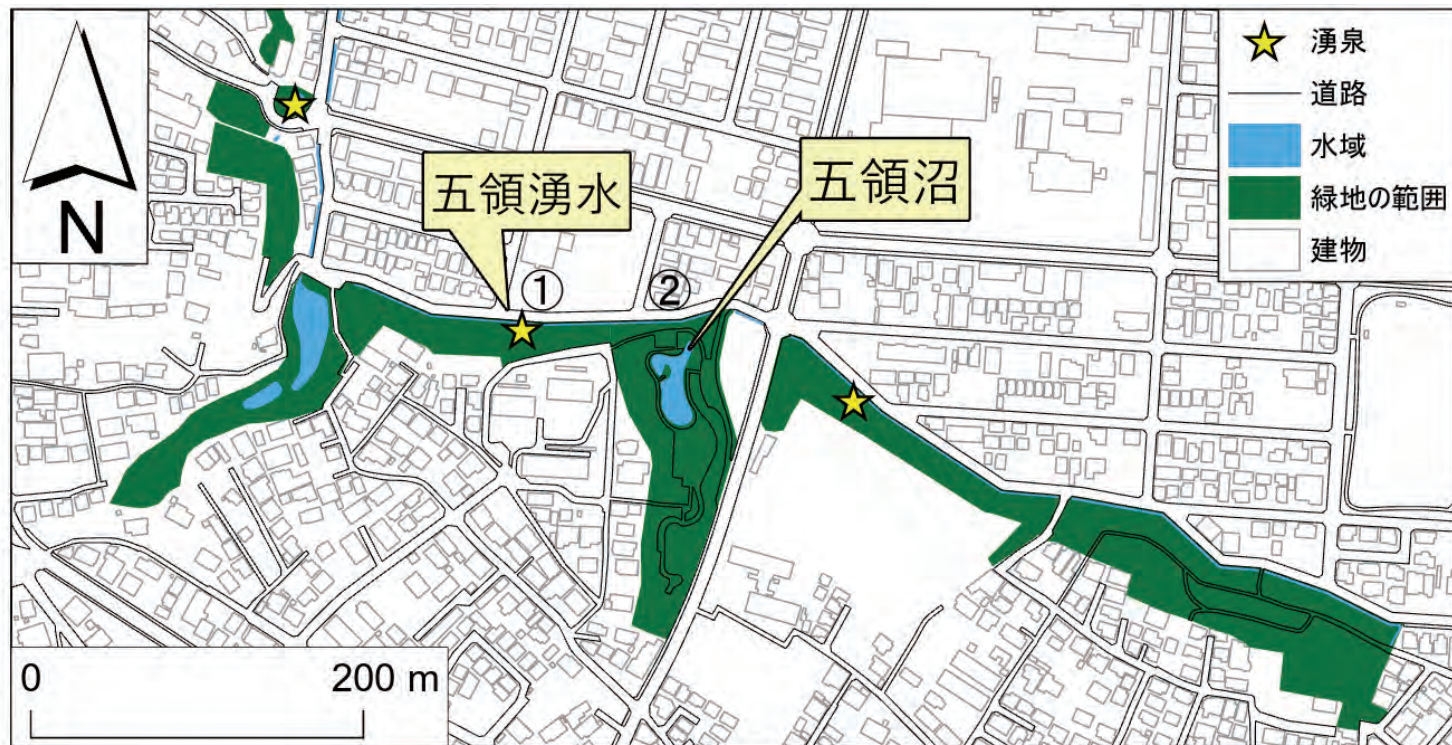


図2 五領沼公園周辺の緑地と池・沼・湧泉の分布
(現地調査によりArcGISで作成)

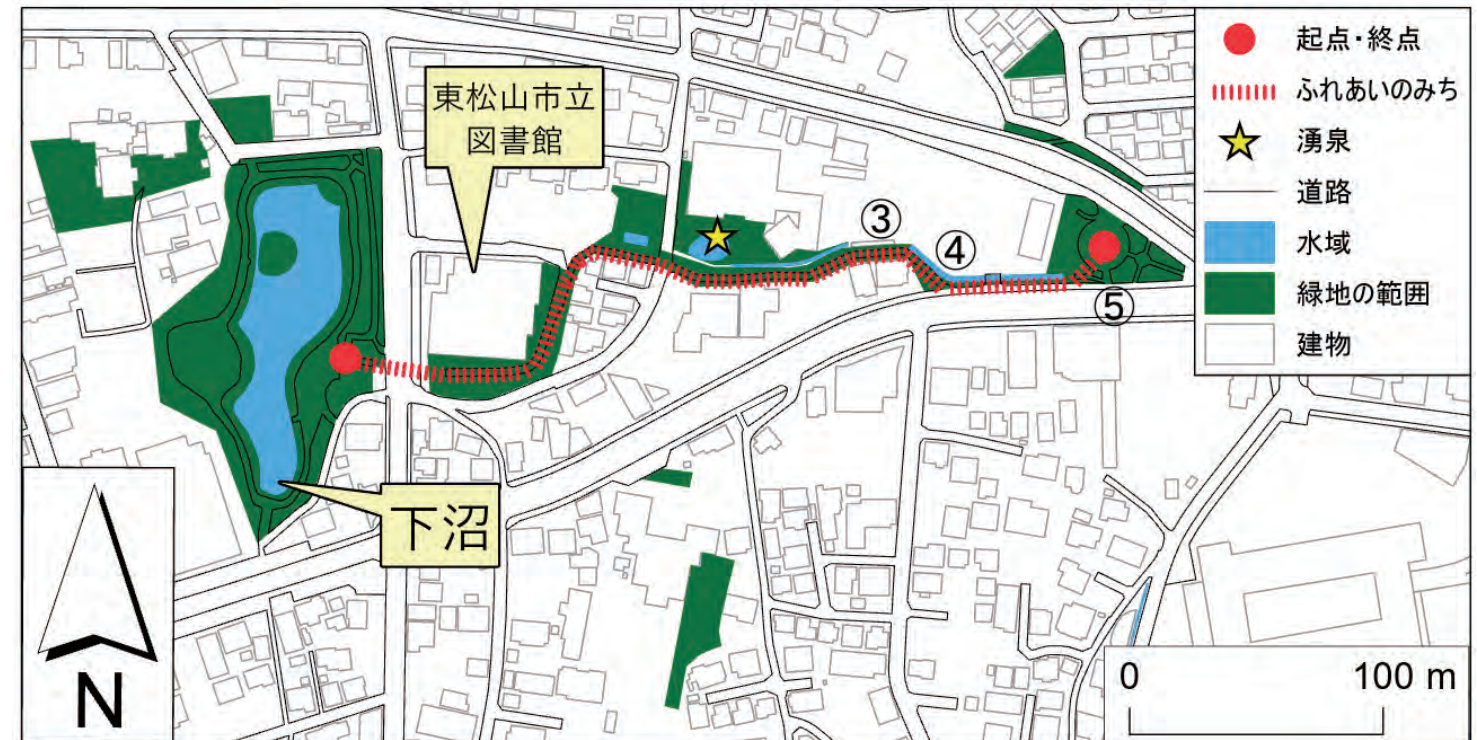


図3 ふれあいのみち周辺の緑地の分布
(現地調査によりArcGISで作成)

2. 東松山の玄関口

2-1 東松山駅



池袋から東武東上線で約50分。
高度経済成長期以降、
都内に向かう通勤通学客のベッドタウン
として成長した東松山市。
その中心駅である東松山駅には、
高層マンションが建っている東口と
静かな住宅地が広がる西口があり、
対照的な景観が見られる。

★ 東口のシンボル

駅の東口に併設されている
東松山市ステーションビル(2008年完成)が、
観光客を出迎えてくれる。
これは、2006年度から始まった再開発事業の
一環で建設された。
それ以前は、駅前通りに大鳥居があり、
街のシンボリック存在だった。



東松山駅西口
(2022年1月撮影)



箭弓稲荷神社拝殿
(2020年12月撮影)

箭弓稲荷神社

★ 西口のシンボル

東口と比べると、低階層の建物が広がる
静かな印象の西口周辺には、
駅から徒歩で約5分のところに箭弓稲荷神社がある。
(詳細はp12へ)
また、駅前から分かれている3本の道沿いは
同じ西口なのにそれぞれ異なる景観をしているので
それぞれ歩いてみてはいかがでしょうか。



東松山駅東口
(2021年6月撮影)



1965年の東松山駅前通り
(東松山市提供)



図1 東松山市の位置と東松山駅周辺図
(地理院地図を基にIllustratorで作成)

2-2 東松山IC (インターチェンジ)

東松山IC・東松山バイパス

東松山ICは関越自動車道の起点の練馬ICから約40kmに位置している。1975年に関越自動車道が川越ICから東松山ICまで延伸したことで開業した。国道254号(東松山バイパス)はインターチェンジ開業に併せて上野本から新郷までが開通し、その後1997年に野本陸橋までの間が開通した。

● 空中写真から見る開通前と開通後の変化
東松山市には南北に関越自動車道が通っており、市街地の西側に東松山ICが設置されている。ICの開業前の1961年の空中写真では西側に工場や倉庫など大きな建物が見られない。一方で東松山IC開業直後の1979年の空中写真ではIC近くに工場が立地している。また、東西に走る国道254号バイパス東側は写真中央の上野本までの間のみが開通している。2007年の空中写真では関越自動車道の西側にも工場が立地しており、国道254号バイパスが東側の東上線を越えて開通している。道路の開通による利便性向上とともに工場などの立地が増えていると考えられる。



1961年の東松山IC開設予定地付近
(国土地理院空中写真)

● 写真で見る開通直後と現在の変化
東松山IC開業直後は周囲は田畑が広がっており、建物などは見ることができないが、現在はトラックなどの大型車が頻繁に往来しており、大きな駐車場がある飲食店や住居などが多く並んでいる。



1975年の東松山IC付近
(東松山市提供)



1979年の東松山IC付近
(国土地理院空中写真)



現在の東松山IC付近
(2021年11月撮影)

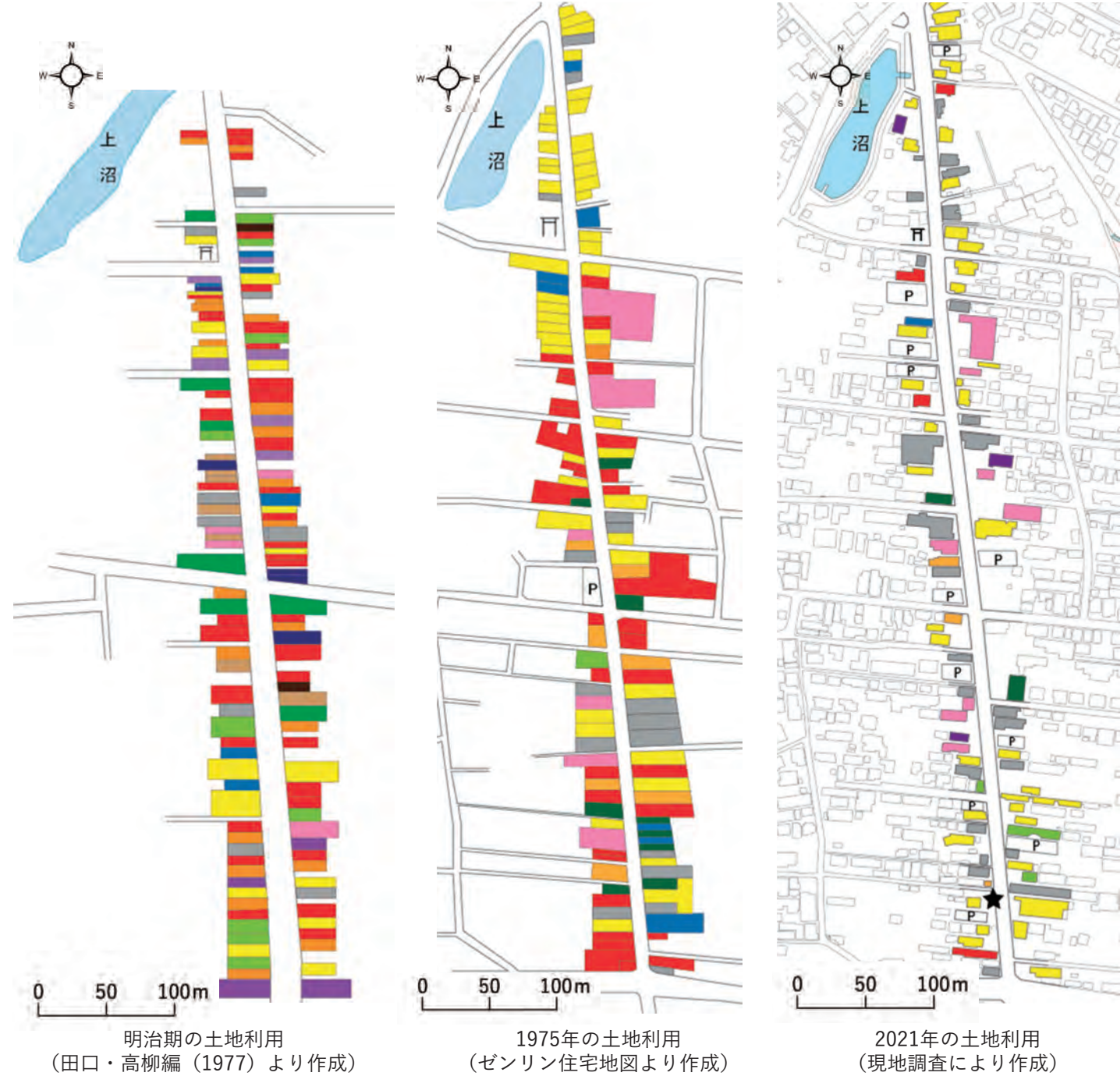


2007年の東松山IC付近
(国土地理院空中写真)

3. 旧中心市街地の变化

3-1 旧街道沿い・本町通り

古くは松山城の城下町。
 廃城になってからは松山本郷の宿場町。
 東松山駅からおよそ徒歩5分の本町通りには、
 現在も宿場町時代の景観を垣間見ることができる。



過去と現在 同地点からの対比写真

★ 撮影地点 (2021年の土地利用を参照)



本町通り (1961年)
(東松山市提供)



現在の本町通り
(2021年10月撮影)

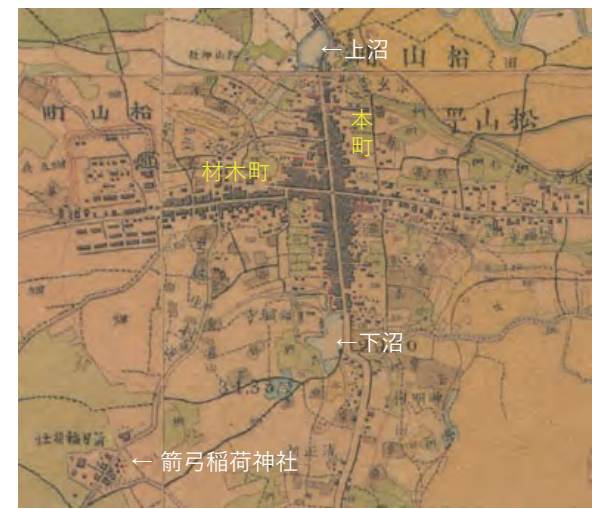
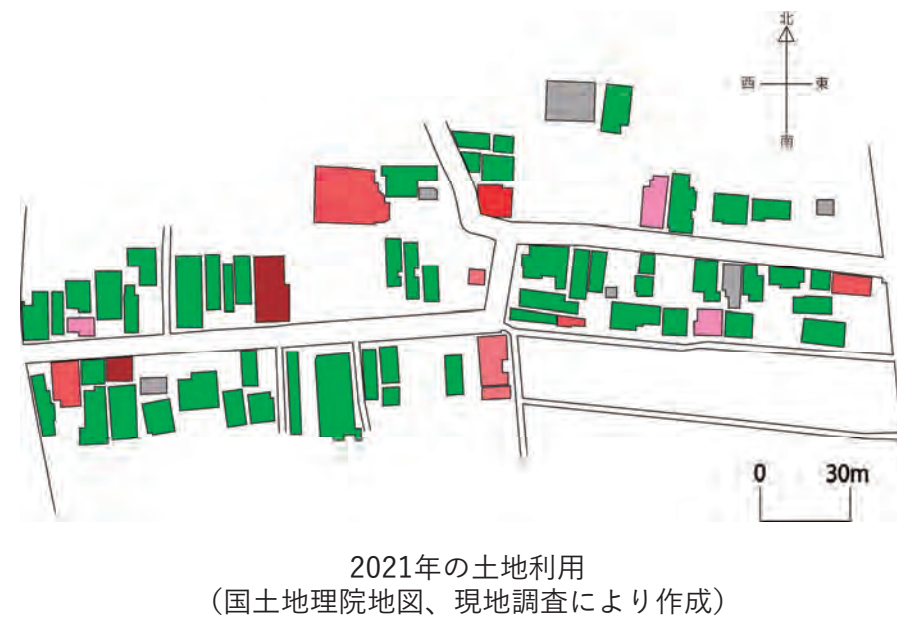
小売 (日用品)	飲食業
小売 (食料品)	宿泊業
病院・薬局	製造業
米穀商	醸造業 (酒・醤油)
糸繭商	建築業
衣装業	その他

凡例 (明治期)

小売 (日用品)	飲食店
小売 (食料品)	サービス業
病院・薬局	製造業
住宅	駐車場
社会福祉サービス	その他

凡例 (1975・2021)

3-2 過去と現在が混在する材木町



明治中頃の松山市街地
(迅速測図原図 (1884年作成・部分・一部加筆) 日本地図センター復刻)

材木町の変化について

材木町の商店街は江戸・明治・大正時代から続く店舗が多くを占めていた。1960年代には日用品や食料品を主に扱う買回店や最寄り品店が多くを占めている。だが、大規模商業施設の設置や店舗の狭小、老朽化などによって多くの店舗が窮地に追い込まれた結果、閉業や移転をすることとなってしまった。その結果、過去と現在が混在した景観が広がっている。過去と現在が混在している材木町に今一度訪れてはいかがだろうか。

日用品・雑貨類・家具
食料品
飲食店・旅館
特殊専門店・事務所・金融業
医院・整体院・薬局・化粧品・美容院
工場・作業所 (新聞含む)
住宅
倉庫・その他



1954年の★印付近
(「フォト歴 東松山」)



現在の★印付近
(2021年12月撮影)



過去と現在が混在した景観
(2021年6月撮影)

4. 日本スリーデーマーチ

日本スリーデーマーチは、東松山市が主催する近隣の11市町村を含めた世界で2番目の規模を誇る国際ウォーキング大会である。コースは比企丘陵を舞台に設定されている為、美しい自然景観や起伏差を楽しむことができるほか、神社などといった名所も数多く取り入れられており、東松山周辺地域の歴史や文化にも触れ合うことができる。ここでは、20キロコースについて紹介する。



写真④ 吉見百穴(吉見町)

② 吉見百穴・森林公園ルート

歴史的、自然的名所が魅力的なルート。ルート上には、国の史跡に指定されている日本有数の横穴墓群である吉見百穴や東松山市の市の花である「牡丹」や「十月桜」といった花々が魅力的な東松山ぼたん園、東京ドーム約65個分の広さがある都市緑化植物園の国営武蔵丘陵森林公園があり、東松山周辺地域の歴史と自然に触れ合うことができる。



写真⑤ 東松山ぼたん園(東松山市)
(東松山市提供)



写真⑥ 国営武蔵丘陵森林公園(滑川町)
(東松山市提供)

① 和紙の里・武蔵嵐山ルート

市野川の河川沿いや都幾川の河岸段丘といった河川によって形成された自然景観が魅力的なルート。ルート上では、全国的にも珍しい鬼を祀る鬼鎮神社や畠山重忠の居館である菅谷館跡といった歴史的名所を楽しむことができるほか、不動滝と呼ばれる湧水のせせらぎにも触れ合うこともできる。



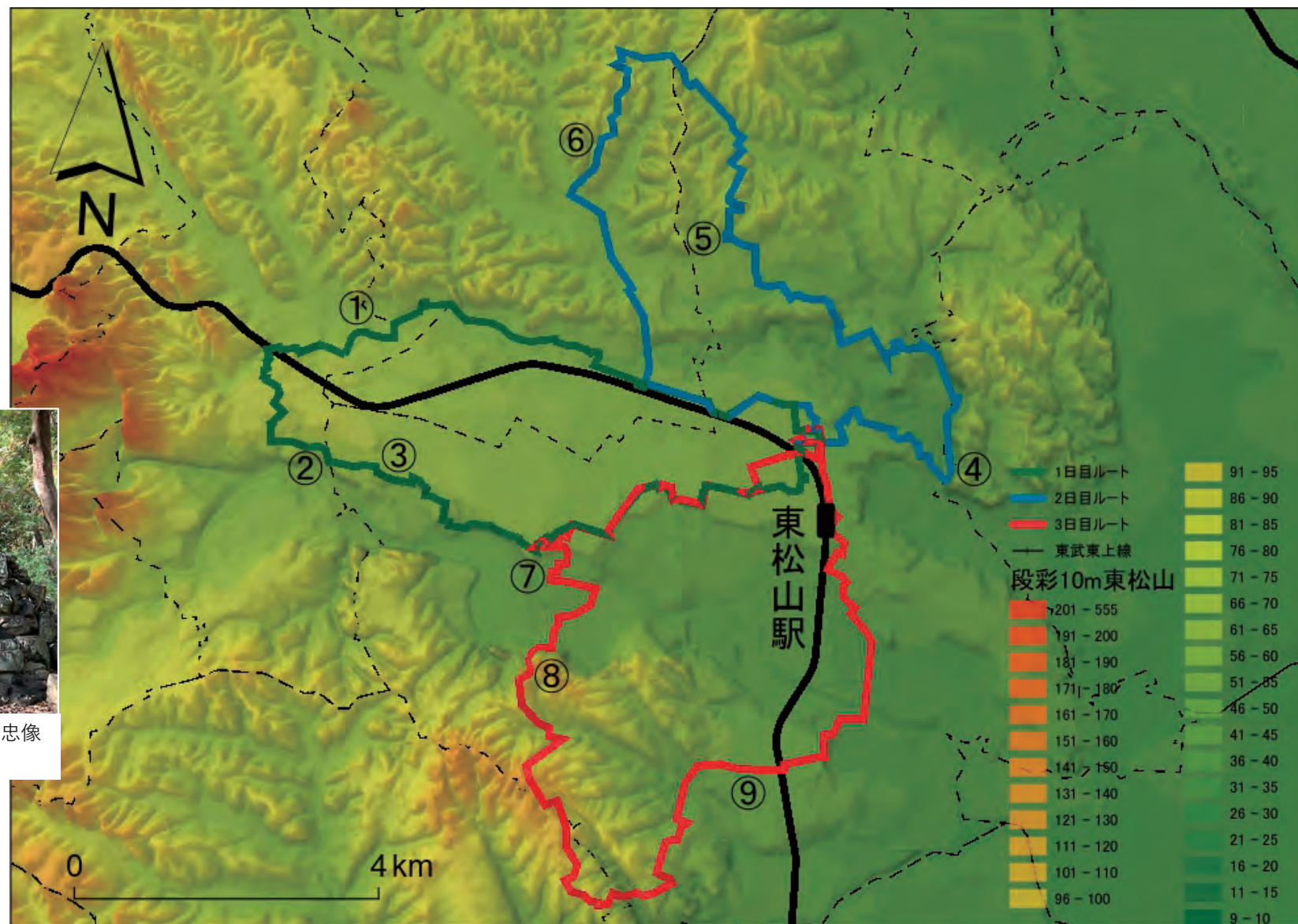
写真① 鬼鎮神社(嵐山町)



写真② 菅谷館跡・畠山重忠像
(嵐山町)



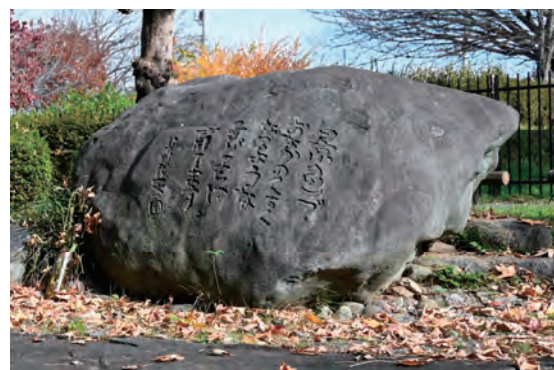
写真③ 不動滝(東松山市)



日本スリーデーマーチ・ルートマップ (2018年日本スリーデーマーチ・ルートマップおよび現地調査によりArcGISで作成)

③ 都幾川・千年谷公園ルート

3つのルートの中でも、最大の難所と呼ばれる高本山峠があり、特に起伏差が激しいルート。ルート上には、彫刻家の高田博厚の野外彫刻ギャラリーである高坂彫刻プロムナードや三大児童文学である打木村治の長編小説「天の園」の舞台である東松山市唐子地区も含まれており、東松山周辺地域にゆかりがある芸術文化に触れ合うことができる。



写真⑦ 「天の園」記念碑(東松山市)
(東松山市提供)



写真⑧ 高本山峠(東松山市)
(東松山市提供)



写真⑨ 高坂彫刻プロムナード(東松山市)

◎コラム 東松山名物 やきとりについて

昭和30年代当時、県内では養豚が盛んで豚肉が出回っていたが、肉は高級品であったため手が出なかった。しかし、カシラ肉はあまり食用としては使われていなかったため、比較的安価で手に入りやすく、屋台で売り出すことができた。この歴史が今の「カシラ肉に自家製の味噌だれをつけて食べる」という東松山名物やきとりのスタイルへと定着した。東松山名物「やきとり」は市内の飲食店で味わうことができる。



やきとり
(東松山市提供)

5. 東松山の歴史的景観

5-1 路地空間



路地のネットワーク
(「OpenStreetMap」よりIllustratorで作成)

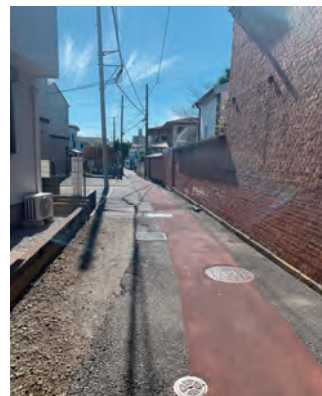
東松山の各所で路地景観が見られることはご存じだろうか。今回紹介する本町・材木町・松葉町では、特に昔ながらの長屋や路地裏が残っており、まちの個性がにじみ出ている。これらの路地には「その先に何があるのだろうか？」と思わせる楽しさや独特の静けさが漂うノスタルジックな空間が詰まっていると言えよう。



本町の路地
(2021年10月撮影)

★ 本町

表通りから奥地に向かって住宅が連っており、狭い路地空間が多いのが本町の特徴だ。東松山において、数ある路地の中でも有数の、自動車も入ってこれないほどの小道も存在する。「生活感が潜んでいる路地」といえるだろう。



材木町の路地
(2021年10月撮影)

★ 材木町

重厚なレンガ造りの建物と住宅の間にあるやや開放的な路地空間が多いのが材木町の特徴だ。歴史的な街並みと新しく建てられた建築物が調和しているのも魅力的である。



松葉町の路地
(2021年10月撮影)

★ 松葉町

江戸期につくられた松山陣屋の名残で全体的に区画が統一されている。現在は比較的新しい建物に囲まれた路地空間となっているのが松葉町の特徴だ。「区画が整備された歴史性のある路地」といえるだろう。

◎コラム 路地の魅力 interview

(富久屋 春秋庵本店三代目店主 平田さんによる)

〈狭さゆえの安心感・高揚感〉

「路地には道幅の狭さや引き込まれる奥深さによって落ち着いた空間を醸し出し、それが人々に安心感や高揚感を与えてくれる魅力がある」と平田さんは語る。普段は賑やかな大通りに目が行きがちだが、時間を忘れてゆったりできる路地に行けば「ローカルな東松山」が発見できるかもしれない。

5-2 歴史的建造物

東松山市は、かつては現在の本町通りを中心に形成された宿場町として賑わい、明治期以降は地域の中心として繁栄してきた。そのため旧市街地には歴史的建造物が点在している。そして現在、それらの歴史的建造物は保存とリノベーションにより様々な用途に活用されている。



満つ乃
(2021年10月撮影)

★ 手打ちそば 満つ乃

本町通り沿いにある満つ乃は、築130年の蔵をリノベーションした手打ちそばの店。以前は違う場所で営業していたが、11年前に現在の蔵で営業を始めた。蔵の内装や、当時使われていた様々な歴史を感じさせる展示物に、店のこだわりを感じることができる。こだわりの手打ちそば・うどんや天ぷら、店主が世界一とうたうそば湯を味わいたい方におすすめだ。

★ 富久屋 春秋庵本店

東武東上線東松山駅から市役所に続く道の、一本裏の路地沿いにある富久屋春秋庵本店は、築90年以上の建物をリノベーションした和菓子店。また、隣には豆腐屋をリノベーションしたカフェも併設されている。「おいしい笑顔になりたいあなたに、季節感豊かなお菓子をお届けします。」と、三代目の平田さんは語る。



富久屋春秋庵本店
(2021年10月撮影)



1923年当時の松山高校記念館
(「フォト歴 東松山」)

★ 松山高校記念館

松山高校記念館は、1923年の3月に竣工した旧埼玉県立松山中学校の校舎の一部を移築・保存した建物で、2020年4月に国の登録有形文化財に指定された。木造の西洋風建築は当時の様子を感じさせる雰囲気だ。2023年に創立100周年を迎える松山高校では、現在この記念館の耐震改修等工事の真っ最中であり、2022年秋頃リニューアルオープンとなる予定である。



現在の松山高校記念館
(東松山市提供)



6. 東松山の歴史資源

6-1 神社・仏閣

東松山市には、神社41社・寺院35寺の合計76社寺が立地しており、それぞれが古くからの歴史を持ち、花や草木の見所があるなど、その特徴は様々だ。こうした歴史や特徴を知ること、学び・楽しみながら寺社を巡ることができる。

●東松山(松山地区)の主な寺社



箭弓稲荷神社
712年創建の社。弓道の箭弓と野球を掛けて信仰されており、野球関係者も参拝に訪れる。毎年飾られる巨大絵馬は、県立松山女子高等学校美術部による作品。



松山神社
1063年創建の社。さいたま市大宮区にある氷川神社と関係が深い。境内には大鳥神社、浅間神社の合祀もあり、12月には大鳥神社の祭礼として酉の市が開かれる。

●東松山(高坂地区)の主な寺社 ※ 寺院の位置は表紙を参照



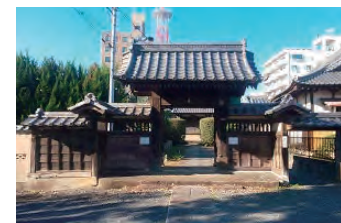
正法寺
東松山市高坂地区にある寺院。正式名称は巖殿山正法寺と言い、通称岩殿観音の名で地域住民等に親しまれている。718年創建の寺院で、坂上田村麻呂の悪竜退治伝説等の歴史を持つ。境内でひとときわ目を引く大銀杏は、推定樹齢700年以上もの巨木で、例年11月下旬から12月上旬に黄葉の見頃を迎える。



●その他の東松山の寺社

八幡神社 (松葉町)
1667年に姫路男山に創建。藩主の居城の移転に伴い幕末に松山陣屋に遷座。晩秋には、境内の銀杏の黄葉が美しい。

日吉神社
1818年に、近江国(現滋賀県)日吉山の日吉山王大権現を当地に移し祀り、創建された神社。日吉町の地名発祥地。



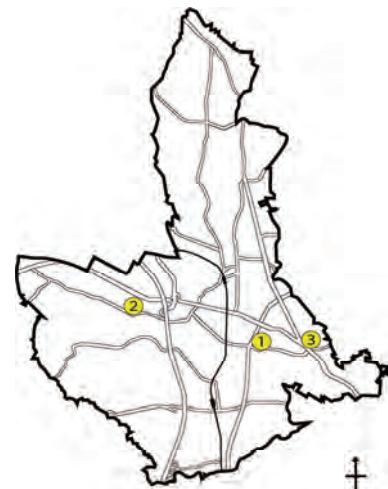
福聚寺



銀杏と八幡神社

6-2 古墳

東松山市は埼玉県の中でも古墳が多い地域である。台地の縁部や丘陵の尾根上に分布している。現在、東松山市には墳丘が消滅したものを含めて600基以上の古墳があることが確認されている。ここでは東松山台地上に立地している古墳について紹介する。



紹介古墳の位置
① 将軍塚古墳
② 若宮八幡古墳
③ おくま山古墳

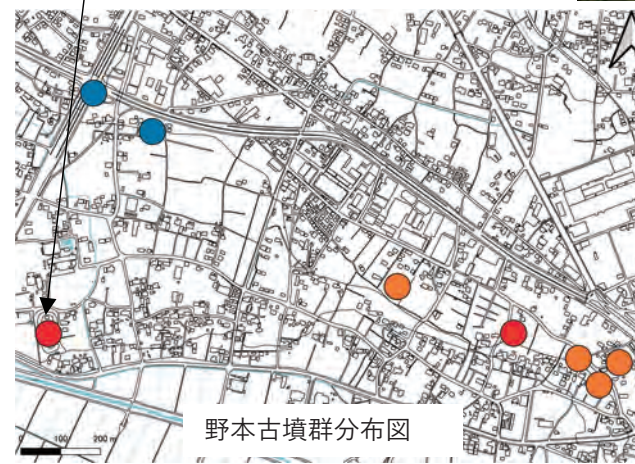
<① 将軍塚古墳 (野本1号墳)>



将軍塚古墳 (2021年10月撮影)



利仁神社 (2021年10月撮影)



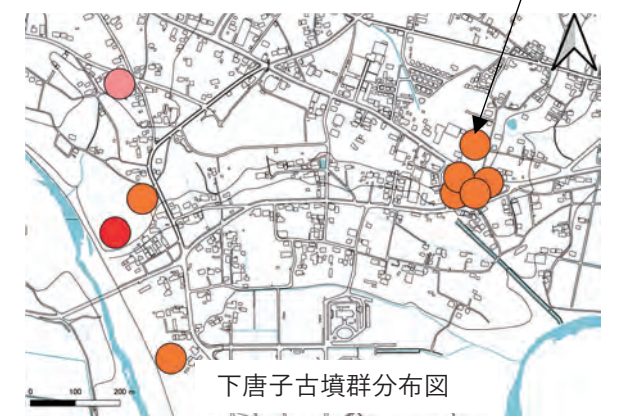
野本古墳群分布図

将軍塚古墳は東松山台地南縁に立地している。現存墳丘長115メートルの前方後円墳で、古墳時代前期の古墳としては埼玉県内最大規模の古墳である。後円部墳頂には平安時代の将軍であった藤原利仁(ふじわらのとしひと)を祀った利仁神社が鎮座していることから将軍塚古墳と呼ばれるようになったと言われている。

<② 若宮八幡古墳 (下唐子3号墳)>



若宮八幡古墳 (2021年10月撮影)



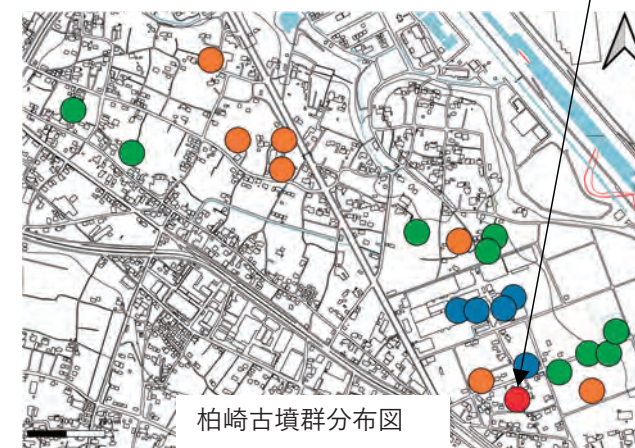
下唐子古墳群分布図

若宮八幡古墳は東松山台地南西部に立地している。現存墳丘長34メートルの円墳である。墳頂には八幡神社が建てられている。主体部は複室構造の横穴式石室で、ほぼ造られた当時の状態で残っている。

<③ おくま山古墳 (柏崎1号墳)>



おくま山古墳 (2021年10月撮影)



柏崎古墳群分布図

おくま山古墳は東松山台地南東部に立地している。現存墳丘長62メートルの帆立貝形古墳である。盾持人埴輪などが出土している。

凡例

● (Red)	完存
● (Orange)	半壊
● (Green)	一部残存
● (Blue)	消滅
● (Pink)	実態不明

※ 本頁の分布図は『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』より作成



巡検ルートマップ (現地調査により作成)

◎ 巡検ルートマップって?

地理学での巡検ルートマップとは、とある地域に調査へ出掛けた際に、調査した場所を地図上に示し、調査地域のどこを通過して調査したのかを、目で見てわかるようにするための地図のこと。今回は、東松山市松山地区の巡検ルートマップを作成した。この地図を手に、東松山を散策するのも面白いだろう。

不動堂
創建年代は不詳。浄土宗の寺院で、現御堂は1835年5月に再建のもの。不動様として親しまれている。

曹源寺 ※ 境内工事中
1625年創建の曹洞宗の寺院。1862年に庫裡を焼失も再建。本尊の地蔵は平安時代の公卿・小野篁の作と伝わる。

福聚寺
1679年創建の天台宗の寺院。本尊の阿弥陀如来像は、奈良・東大寺の大仏建立に奔走した行基の作と伝わる。

本冊子に掲載した寺社の他にも、東松山には花や草木が見所の寺社や、重要文化財等を始めとした貴重な文化財を保有する寺社など、様々な寺や神社があります。是非、散策してみたいはいかがでしょうか。

7. 東松山の特産品

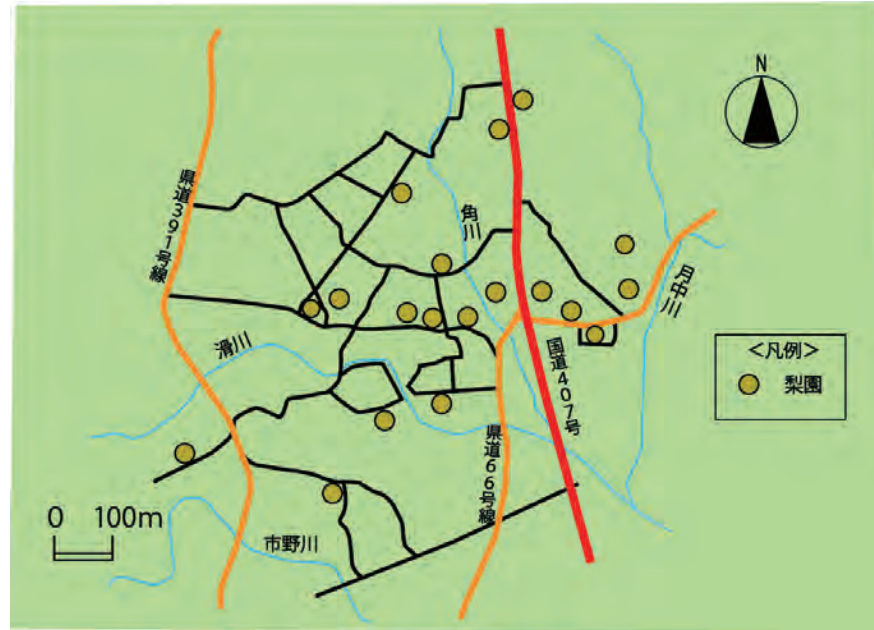
7-1 梨 (ナシ)

東松山市の特産品である梨は、埼玉県内の自治体で8番目の栽培面積がある（2015年農林業センサス）。特に、市内北部の東平・野田で栽培が盛んに行われており、多くの梨園が分布している。



王秋
(2021年10月撮影)

※ 王秋の収穫時期「10月下旬～11月上旬」



東松山市 東平・野田の梨園
(東松山市観光協会「東平 梨狩りマップ2021」よりillustratorで作成)

なぜ梨が有名？

東松山市の梨の起源は、1877年頃に東平の南増五郎氏が前橋市にて栽培方法を学び、それを東平地区で広めたことで梨農家が増えたこととされている。そこから、1965年頃に東武鉄道で梨狩りのPR（吊り革広告）を行ったことで、梨狩り客が増加し、知名度が上がった背景があり、東松山市の梨が有名となった。



新高
(「なしやさん」提供)
※ 新高の収穫時期「9月中旬～10月初旬」

長期保存可能な梨もあるよ！

東松山市には、長期保存可能な梨として、「新高」「王秋」などがある。中でも「王秋」は、保存の状態が良いと最長3か月程度まで保存が可能である。

梨加工品開発の取り組み

東松山市の梨農家のなかでは、生産した梨を、できるだけ風味を保つように工夫しながら、加工品開発を行っている。梨を使った加工品は市内の農産物直売所「いなほてらす」などで販売しており、この活動が東松山市の梨の知名度アップにつながっている。



6次産業化の取り組み

※ 6次産業 = 1次産業 × 2次産業 × 3次産業



梨パウンドケーキ

7-2 栗 (クリ)



東松山市郊外の歴史



唐子地区石橋における桑畑の分布 (1990年)
(空中写真およびゼンリン住宅地図よりillustratorで作成)



唐子地区石橋における栗栽培地の分布 (2021年)
(現地調査によりillustratorで作成)



埼玉県における栗栽培面積
上位5市町村 (2015年)
(2015年農林業センサスより作成)

東松山市は、県内で2番目の栗栽培面積を有し、特に市内西部に位置する唐子地区で栽培が盛んに行われている。このページでは、唐子地区石橋の土地利用変化（桑畑→栗栽培地）をとおりて東松山市郊外の歴史に触れる。東松山市産栗を使った商品情報も掲載しているので、ぜひ味わっていただきたい。

土地利用の変遷

桑畑

1870年代～ 1900年代（特に第一次世界大戦以後）～
養蚕業開始 市内で養蚕業が拡大

1960～80年
絹の需要低下に伴う
養蚕業の衰退（集約化）

現在、桑畑のほとんどが栗栽培地へ転換された

※ 桑畑とは…カイコの餌となるクワの栽培地
養蚕業とは…カイコを飼育し、製糸用の繭を生産する絹産業の一部門

転換期

栗

自家消費を中心とした果樹栽培の開始
徐々に商品作物としての栽培へ

1960年
栗組合設立
1980～85年
栗栽培の最盛期を迎える

唐子地区を中心に市場への出荷を主目的とした栗栽培が行われている

栗を味わう

市内の農産物直売所（いなほてらす）で販売（生栗や栗の甘露煮、お菓子など）
他にも、イベントでの焼き栗販売や高坂SA下りの栗ソフトなど



ポロール

東松山市産栗（品種：ぼろたん）ペーストを使用したロールケーキ
ふわっとした生地と滑らかなペーストがよく合う



栗パウンドケーキ

細かく砕いた東松山産栗の甘露煮が入ったパウンドケーキ
しっとりとしていて甘さ控えめ栗の甘露煮がいいアクセント

東松山で地理巡検を。

地理の巡検では、案内者と共にさまざまな場所に出かけて自然や町並みなどを観察し、時には地元の人のお話を聞き、場所に対する理解を深めます。

東松山の巡検では自然環境と人間活動の関わりに着目し、たとえば次のような疑問を持って歩きます。町なかの自然（緑地、湧水、沼）は、地域をどのように特徴づけているのか。交通の発達（東松山駅、東松山ICの開設）に伴って町は大きく発展したが、旧市街地（本町、材木町）はどのように変化したのか。市内にある歴史的遺産（路地空間、歴史的建造物、神社、仏閣、古墳）は適切に保全され、地域資源として活用されているのか。郊外で果樹栽培（梨、栗）が盛んになったのはなぜか。答えを探しながら町場や里を歩けば、それは地理巡検です（日本スリーデーマーチ）。

東松山市の基本情報

面積：65.35km²

人口：90,385人（住民基本台帳 2022年1月1日現在）

交通：池袋駅から東松山駅まで約50分（東武東上線）
練馬ICから東松山ICまで約30分（関越自動車道）

市制施行：1954（昭和29）年7月1日

比企郡松山町・大岡村・唐子村・高坂村・野本村が合併し、東松山市が誕生

都市地理学の視点で選んだ

東松山の三景

（写真は東松山市提供）



上沼の桜と本町の町並み（1937年）



ぼたん通り商店街（1963年）



材二商店街・一番街（1964年）

立正大学 地球環境科学部 地理学科

立正大学（所在地：東京都品川区および埼玉県熊谷市）は、2022年に開校150周年を迎えた歴史と伝統のある総合大学で、人間・社会・地球（環境）に関する9学部16学科7研究科を有しています。熊谷キャンパスにある地球環境科学部地理学科には約500人の学生が在籍し、人文・自然の両面から地域の課題を探っています。地理学科の片柳ゼミでは、2012年に妻沼地区で活動を始めて以降、くまがや市商工会、めぬま商人会（あきんどかい）、道の駅めぬま等と連携しながら、さまざまな媒体をとおして地域の情報を発信してきました。2020年度からは、秩父鉄道、東武東上線沿線での活動にも力を入れています。

住所：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700
Tel 048-539-1630 <http://rissho-map.jp>

片柳ゼミのメンバー（2021年度）

秋山佑太、我孫子海舟、新井貫太、加藤恵太、金田幸樹、栗原孝佳、嶋田真吾、高橋直也、堤美喜、中林俊平、西澤優人、野澤悠真、藤田小雪、渡邊郁樹、片柳 勉（専門：都市地理学）

参考文献

- 大園口承監修 2008. 『東松山・比企の今昔：保存版』郷土出版社.
- 埼玉県商工部 1961. 『東松山市材一商店協同組合・材二奉仕会商店街診断書』埼玉県.
- 埼玉県立さきたま資料館編 1994. 『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』埼玉県教育委員会.
- 田口浪三・高柳鶴太郎編 1977. 『復刻 埼玉縣營業便覧』埼玉新聞社出版局.
- 原田吉樹・荒井 豊 2019. 『埼玉県東松山市の地質』東松山市.
- 東松山市観光産業部商工観光課 2020. 『第2次東松山市観光振興基本計画』東松山市.
- 東松山市教育委員会 2021. 東松山市の古墳ハイライト.
- 東松山市教育委員会 2019. 埼玉県指定史跡將軍塚古墳.
- 東松山市教育委員会事務局市史編さん課編 1984. 『東松山市史（資料編第4巻近・現代編）』東松山市.
- 東松山市教育委員会事務局市史編さん課編 1986. 『東松山市の歴史（下巻）』東松山市.
- 東松山市本町研究会編 2011. 『東松山の今昔あれこれ』東松山市本町研究会.
- e-Stat 政府統計の総合窓口
<https://www.e-stat.go.jp>
- 国土地理院（地図・空中写真・地理調査）
<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>
- 埼玉県
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0903/k12-gijutujouhou/kakou.html>
- なしやさん
<https://nashiyasan.com/>
- 日本スリーデーマーチ実行委員会
<https://japan3day.jimdo.com>
- 東松山市観光協会
<https://higashimatsuyama-kanko.com>
- 東松山市
<http://www.city.higashimatsuyama.lg.jp>
- フォト歴東松山
https://www.libcity.higashimatsuyama.saitama.jp/Higashimatsuyama_Top/

※ 本冊子に掲載した写真は、執筆者が撮影したもの以外はすべて東松山市および関係者から提供を受けたものです。



立正大学熊谷キャンパス